

# Revised POLESTAR English Expression I

## “Express Yourself” を使った活動と評価

山野井 純子

### 1. はじめに

学習指導要領が改訂され、英語の4技能5領域の重要性が叫ばれているが、本校、埼玉県立川口北高等学校英語科では、3年前に Can-Do List を完成し、各学年がそれに基づき、発信型の活動を取り入れ、評価まで結びつけてきた。本稿では教科書 *Revised POLESTAR English Expression I* を使用しての活動と考査での評価について、一つの発信型の指導実践例として紹介する。

### 2. 授業展開

基本的な授業展開は以下の通りである。

#### (1) ペアによる会話

1年生前半は、最初の質問は5W1Hを使った疑問文を指定し、それに対して答える形式であったが、後半になってからは、ディベートの活動につなげるため、2つのものから選択する形の質問にした。

Student 1 (S1)の質問は指定し、Student 2 (S2)は2つ理由を述べ、結論を繰り返すように指示した。

S1: Which do you like better, A or B?

S2: I like A better.

S1: Why do you like A?

S2: Because (2 reasons). So, that's why I like A.  
・AとBの例としては、rural area vs. urban area, summer vs. winter, swimming vs. snowboarding, bread vs. rice, English vs. mathematics など

#### (2) リスニング

教科書 *Let's Listen* と *Real-World English* のリスニング

(3) 教科書の文法事項の説明と答え合わせ

教科書だけではなく、参考書『チャート式シリーズ 基礎からの新々総合英語』を使用し補足説明

(4) 教科書準拠のワークブックの答え合わせ

(5) 教科書 “Express Yourself” を用いて、各課のまとめの活動

Lesson 12

**Express Yourself**

Read Aoi's diary on her blog and do the exercise.

**Expressions**

- rather むしろ、かなり
- cousin いとこ
- equation 方程式

**Rather difficult to do**

The other day, my aunt asked me to give my 11-year-old cousin some math lessons. I thought there would be no problem at all, because I'm good at math. However, I found it rather difficult to explain how to solve math problems without using any equations.

**STEP 1** Write about something you were asked to do.

[Aoi] The other day, my aunt asked me to give my 11-year-old cousin some math lessons.

[You] \_\_\_\_\_

**STEP 2** Say how you felt about the request at first.

[Aoi] I thought there would be no problem at all, because I'm good at math.

[You] \_\_\_\_\_

**STEP 3** In what way did it turn out to be difficult to do?

[Aoi] However, I found it rather difficult to explain how to solve math problems without using any equations.

[You] \_\_\_\_\_

**Can-Do Check!**

- Can you talk about something you found rather difficult to do?
- Can you explain what makes something difficult to do?

**Short Speech**

Following Aoi's example, write about 40 to 50 words on something you found rather difficult to do. Then, make a short speech in front of your class.

- ① 教師が教科書のモデル文を読みあげる
- ② 生徒は5分間で自分の文を考える
- ③ 教師が自分の文を発表する。“Read & Look Up”や暗唱など、目標とする発表の仕方に応じた手本を見せる
- ④ 生徒は全員立ち上がり、ペアになり互いの文を発表し合う。“Read & Look Up”や暗唱に気を付ける。
- ⑤ ペアを変えて何回か繰り返すうち、教師は何も見ないで発表するよう指示する
- ⑥ 生徒は4人グループを作り、グループ内で発表し合う。グループの中で一番良かった者を各グループの代表として選び、10人が全体の生徒の前で発表する

### 3. 評価

授業の中で行った活動を、どう評価に結びつけるかが、今までの課題であったが、現在では全学年と

も定期考査で自由英作文を出題し、授業中の活動を評価に結びつけている。本校の定期考査は学年共通であり、以下は過去の定期考査で出題した例である。

#### (1) 問題

英語で 40～50 語程度のエッセイを書きなさい。タイトルに従い、指定された内容を含むまとまった内容の文章にすること。(6点)  
 〈課題〉あなたが「他人から頼まれたことで、難しいと感じた事」を書きなさい。文法事項として必ず、①受動態、②疑問詞+to 不定詞を使用すること。  
 注)・段落を変えずに詰めて書く。  
 ・句読点は1語に数えない。

#### (2) 解答用紙

					20	
	30					
			40			
50						

#### (3) 採点基準

- ・文章の長さ 20～29語(1点), 30～39語(2点), 40～50語(3点)
- ・指定された内容(1点), 文法事項(1点×2種類=2点)
- ・文法を正しく使えていなかった場合-1点するが-2点はしない。
- ・課題で要求された文法以外の文法ミス、スペルミスなどは、減点の対象にはしない。
- ・書かれた文の中には、全く意味が取れない文が含まれている場合もある。その文には波線を引くなどして、考査後、本人が見てそのことをわかるようにする。その文が課題で要求された文法事項を含む文でなく、その他の文で指示された内容が伝わる場合は、減点の対象とはしない。

#### (4) 解答例

I asked by my sister talk Pepper, an AI robot.  
 Because she was afraid to do so. I thout it is easy at first. But, I found it is difficult. Because it was broken, And I don't know how to fix it. (42語)

上記の例は、語数が42語なので3点、難しいと思った内容が書かれているので1点、文法事項の①受動

態は1番目の下線部は間違いだが、2番目の下線部でできているので1点、②疑問詞+to 不定詞は3番目の下線部で正しく使えているので1点となる。つまり、全体では6点で満点の解答である。このように、まだ正確性(accuracy)には難があるが、文章をどんどん書くこと(fluency)に慣れさせている段階である。

#### (5) その他の指導

- ・課題の内容は、教科書“Express Yourself”の活動内容の中から1つ選び出題している。
- ・生徒へは考査範囲内の“Express Yourself”から1つ出題されることは授業中に知らせている。
- ・語数：1年生前半は「30～40語程度」であったが、後半は「40～50語程度」とした。
- ・文法事項：1年生の前半では考査範囲内の文法を1つにしていたが、後半になり2つに増やした。
- ・英文を書いた努力を評価するため、文法事項の減点に関しては、2つとも間違っているでも-1点としたが、-2点したこともある。

## 4. まとめ

*Revised POLESTAR English Expression I* の“Express Yourself”をしっかりと行うことにより発信型の授業展開ができ、またそれを定期考査に自由英作文として含めるようになり、授業で行った活動を評価できるようになった。しかし、考査への導入に関しては、最初からスムーズにいったわけではない。本校では学年共通の考査を行っており、採点の労力を考えると、自由英作文を定期考査に入れることを躊躇してしまっていた。しかし、採点の仕方を工夫することにより、現在では全学年が自由英作文を定期考査に取り入れている。もう一つのポイントは、同僚性である。毎週の教科会で、必ず各学年でどのように授業を進めているか、どのような副教材を使用しているか、どのような問題が起こっているかなどの情報を共有している。また、他の学年でうまくいったものは、自分の学年でも積極的に取り入れていくようにしている。

授業で行った発信活動をそのままにせず、考査の自由英作文として評価することにより、生徒が授業でより活発に活動し、更に考査の英文の量は確実に増えてきている。今後の課題は、英文の正確性をいかに高めていくかということである。